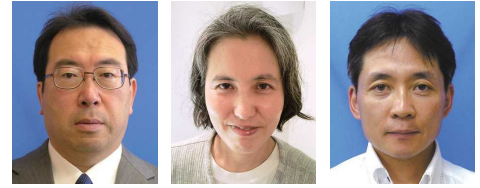


河川管理における外来植物の分布拡大の抑制

(研究期間：平成26～28年度)



社会資本マネジメント研究センター

緑化生態研究室 主任研究官 山岸 裕 招聘研究員 (学術博士) 島瀬 頼子 室長 舟久保 敏

(キーワード) 河川、外来植物、外来植物防除対策

1. はじめに

「生物多様性国家戦略2012-2020」(平成24年9月閣議決定)では、愛知目標^{注)}の達成に向けたわが国の国別目標を設定しており、外来種対策の具体的な施策のひとつとして、河川における外来種の急速な分布拡大を踏まえた外来種対策の推進、外来植生等に関する調査研究および効果的な対策の検討を行うとしている。また、愛知目標を踏まえて策定された「外来種被害防止行動計画」(平成27年3月26日策定 環境省 農林水産省 国土交通省)においては、外来種対策として蔓延防止に向けた侵入初期段階を重視している。そのために、河川における外来植物対策においては、地上の植生状況のみならず、種子供給源および土壌シードバンク(埋土種子集団)の形成を把握することが、外来植物の侵入段階及び今後の分布拡大等の植生変化を把握する上で重要となると考えられる。

2. 研究内容

1. の背景のもと、国総研では、平成26年度より河川における地上部植生のみならず地下部の埋土種子の種組成及び分布特性を調査し、それらを用いた外来植物の侵入段階の把握、さらには侵入段階に応じた外来植物の効率的な防除対策に関する研究を行っている。

平成26年度には、アレチウリ、オオキンケイギク等の特定外来植物を含む外来植物が生育している全国の6河川(北上川、荒川、鬼怒川、多摩川、木曾川、吉野川)を対象として、生育箇所周辺における地上部の植生調査及び土壌の採取等を行った。

平成27年度には、採取した土壌の撒き出し実験(写真)及び本省水管理・国土保全局河川環境課の協力のもと全国の直轄河川事務所における外来植物防除

の現状を把握するためにアンケート調査等を実施した。アンケート調査では、外来植物の定着初期段階に対策を実施した場合に高い効果が得られるという傾向が示された(図)。



オオキンケイギク(木曾川) オオハンゴンソウ(北上川)
写真 撒き出し実験で発芽した実生の例

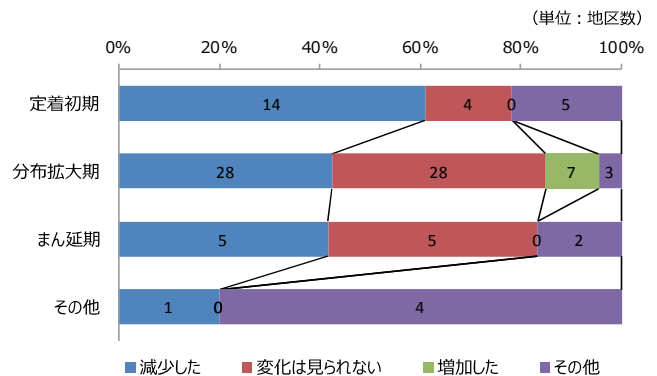


図 外来植物の定着段階と防除対策の効果

平成28年度は、過去2箇年度の研究成果等をもとに、地上部植生と土壌中の埋土種子分布の関係を分析するとともに、外来植物の侵入動向及び定着に関する分析等を行った。

なお、土壌採取及び撒き出し実験は、外来生物法に基づく許可を得て実施した。

3. おわりに

本研究の成果として、河川管理における外来植物防除に関するアンケート調査結果及び防除対策に関する解説書(案)を国総研資料として公表していく。

注)「愛知目標は、戦略計画2011-2020で、2050年までに「自然と共生する世界」を実現することをめざし、2020年までに生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施するという20の個別目標です。戦略計画2011-2020は、生物多様性条約の3つの目的、(1)生物多様性の保全、(2)生物多様性の構成要素の持続可能な利用、(3)遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分、を達成するため、COP10で採択された2011～2020年の新たな世界目標です。」環境省ホームページより <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/>